

いな り やま たて 稲 荷 山 館 跡

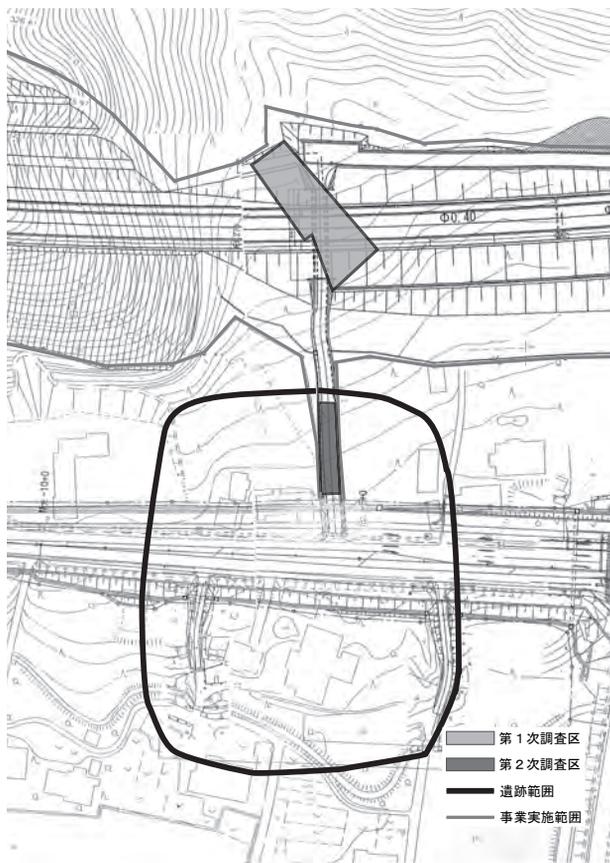
遺跡番号	米沢遺跡地図A-393
調査回数	第2次
所在地	米沢市万世町梓山稲荷山
北緯・東経	37度53分39秒・140度09分45秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道（福島県境～米沢）建設
調査面積	200㎡
現地調査	平成18年7月18日～8月4日
調査担当者	須賀井新人（調査主任）、阪 英子
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所、置賜教育事務所、米沢市教育委員会
遺構種別	城館跡
時代	中世（鎌倉時代）
遺構	土塁、堀跡、柱穴
遺物	内耳土塙、播鉢
	（文化財認定箱数：1）



調査の概要

東北中央自動車道は福島県相馬市と秋田県横手市とを結ぶ高速自動車網で、福島市からは国道13号と並行する縦貫道として整備・建設中である。

稲荷山館跡は米沢市街地から南東方約6kmに位置する中世の館跡で、米沢市遺跡地図に記載された周知の遺跡である。国道13号が遺跡の中央部を東西に横断しているため、現況の館跡はこれを挟んで南・北側に分断されている。今回の調査は、昨年度に続く第2次調査で、館跡内部を対象としている。7月18日より調査を開始し、当



調査区概要図（S=1:2,500）

時の構築物として現存する土塁と堀跡を主体に調査を行った。

遺構と遺物

館跡は山麓の自然地形を利用し、尾根に面した空間を土塁と堀でL字状に区画して構築されたと考えられる。土塁は何層にも土を積み上げて構築され、堀は土塁と平行して外側に築かれていた。柱穴は内部の建物跡を構築するものの一部と考えられるが、調査区域が限定されていたことからその内容については不明である。

遺物には10数点の土器片があり、置賜地方の中世の遺跡によく見られる内耳土塼片が見つかった。

稲荷山館跡は南西側にそびえる早坂山を背景として、山麓に築かれた「平城」に分類される。本館跡は伝承によれば長井氏の家臣、熊坂利衛門の築城とされており、

伊達氏の置賜侵入の際に最後まで戦ったが敗れ、廃城になったと伝えられている。梓山付近には10余りの館跡や山城が点在していることから、この地域が古来より交通の要所であったことが窺われる。



内耳土塼



稲荷山館跡略測図



土塁と堀跡



調査区全景（土塁・堀跡側より）



調査区全景（主郭側より）